

# 高度な自動走行・MaaS等の 社会実装に向けた研究開発・実証事業費

## 令和2年度概算要求額 65.0億円（42.0億円）

### 事業の内容

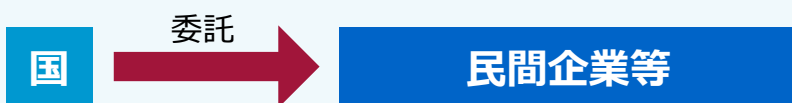
#### 事業目的・概要

- 環境・エネルギー制約への対応の観点から、我が国のCO2排出量の約2割を占める運輸部門において、新たな取組である自動走行の普及による省エネへの期待が高まっています。
- 一方で、高度な自動走行・MaaS(\*)等の社会実装に向けては、産学官の協調が不可欠な安全性の評価や事業環境整備等の課題が存在します。  
※MaaS: Mobility as a Service (IoTやAIを活用した新しいモビリティサービス)
- 本事業では、関係省庁とも連携し、安全性・社会受容性・経済性の観点や、国際動向等を踏まえ、安全性評価手法の研究開発を進めるとともに、高度な自動走行・MaaS等の実証等を通じて世界に先駆けた社会実装に必要な技術（無人後続車の先行車追従技術、車両の遠隔操作・監視技術等）開発や事業環境等の整備を行います。

#### 成果目標

- 平成28年度から令和2年度までの5年間の事業であり、公道を含む実証事業等を通じ、高度な自動走行・MaaS等の社会実装に必要な安全性評価手法の開発や事業環境等の整備を行います。
- 令和2年度までに後続車無人のトラック隊列走行技術を確立し、令和11年度に1台あたり10%程度以上の省エネを目指します。

#### 条件（対象者、対象行為、補助率等）

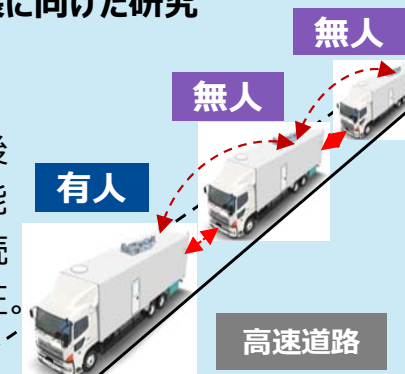


### 事業イメージ

#### 高度な自動走行・MaaS等の社会実装に向けた研究開発・実証のイメージ（例）

##### ①トラックの隊列走行

電子牽引(通信及びセンサ等により、後続車両が先行車両に追従することを可能とするシステム)により、2台目以降の後続車両は無人として隊列を組む走行を実証。



##### ②遠隔操作・監視

特定の条件(道路、速度、環境等)において、遠隔の管制センターからオペレーターが車両の周辺状況や車両の挙動を監視する等の条件の下、車両内を無人にした自動走行を実証する。

##### ③安全性評価手法の開発

自動走行車の安全性をバーチャルで評価するために必要な手法を開発し、安全性評価手法の国際的な議論を主導する。

##### ④自動走行車等を活用したMaaS実証

2025年頃の無人自動走行バス・タクシー等を活用した新たな移動サービス(MaaS)の事業化に向け、自動走行車や電動商用車等を活用した新しいモビリティサービスの地域実証を今年度から開始し、既存サービスからの事業性の向上、ビジネスモデルや省エネ効果等の検証を行う。

